



羅針盤 No.26

東港金属株式会社

東京都大田区京浜島2-20-4

電話 03-3790-1751

URL <http://www.tokometal.co.jp>

(見学受付)

電話03-3790-1751 又は 各営業担当

5月と聞くと、新緑、端午の節句、五月晴れなど若々しく元氣な風景が目に見えませんが、4月末からそれとは全く反対の黄砂が日本の空に飛来しているようです。黄砂を機上から見ると、本当に黄色の幕が広く天空を覆い、それが偏西風に乗り風下の日本に流れてくるのが見えます。ひどいときには肉眼で見通すことができる「視程」が狭くなり、目にも沁みるようです。

鯉のぼりも泣いてしまう黄砂ですが、今年の5月は楽しみもあります。5月21日 日本各地で太陽がリング状に見える珍しい天文現象「金環食(金環日食)」が見られるという情報。金環食は裸眼で見ると失明につながる危険がありますので、日食グッズ使用などの注意をしましょう。

国内で次に見られる金環食は2030年(北海道)です。

宇宙もゴミが多いと聞きますが、地球上の不要物は出来る限りリユース、リサイクルして循環させ、次世代へ負荷を残さないようにするのが、今私たちに課せられた義務です。東港金属株式会社は非鉄・スクラップの買取り、産業廃棄物の処理をお受けいたします。身近なリサイクルパートナーとしてお気軽にご相談ください。



★羅針盤

鉄スクラップ

考察) 4月は予想に反し、2,000円/トン下がり、東京製鉄宇都宮特級価格の28日時点では32,000円/トン。5月は、アジア向け輸出の引き合いの伸び悩みから見て下がると考えられます。

銅

考察) 4月は、LME8,400ドル/トン、銅建値760,000円/トンでスタートしたものの、中盤に一時はLME8,000ドル/トンを割り込む場面もあり、先行き不安な状況になりましたが、28日時点では、なんとか8,400ドル/トンに達しました。しばらく上がると思われていますが、欧州債務問題の深刻化もあり、不安な状況は続くと思われています。銅相場は、上げ下げを繰り返すでしょう。今が売り時と思われています。

アルミ

考察) 4月は、LME2,400ドル/トンでスタートしたものの28日時点では、2,068ドル/トンまで下がりました。海外のアルミ生産の調整。国内では2次合金メーカー向け炉前価格も下がり、買い手市場になっています。特にアルミ缶の需要は下がる 一方です。5月は、更なる下げが予想されます。

プラスチック

考察) 原油が下がり、以前に比べると円安ですが、バイヤーからは、価格変動の情報もないため5月は4月同様、横ばいと思われています。

4月予測の自己評価

鉄スクラップ	×	アルミ	×
銅	×	プラスチック	○

鉄・非鉄スクラップ・市況からの5月予測

営業部 Y の考察



チャレンジ人生

(第7回)

★羅針盤

放射線物質についての基準について

今回は、私が芸人時代アルバイトとして始めた婚礼司会の話をしたいと思えます。当時、芸人仲間では、生活費を稼ぐ為に婚礼司会をしていた人が多かったため皆アルバイト感覚で受けていました。

私が最初に受けた婚礼の司会は某県の農協でした。毎週土日に1日2~3本こなしていました。今考えると信じられない程いい加減な式場でした。

通常、結婚式(披露宴)の司会は、仕事を受ける→お客様への挨拶電話→打ち合せ日程を決定→打ち合わせ→変更事項確認→披露宴当日①式の前に挨拶、②祝電確認、③本番前に親族挨拶、④入場前に挨拶して本番スタートですが、この農協は違っていました。

仕事が決まってから、新郎・新婦の書いたアンケート用紙がFAXで届き、そのまま本番、スタートと実に簡単でした。打ち合わせなどありません。当日初めて、新郎・新婦の顔を見るのです。入場前の挨拶もありません。ましてや、お開き後の挨拶もありません。

1日に数本こなすには、お開きの時間=次の披露宴の始まりの時間になります。

また、この式場の配膳の女性は宴のお客さんと一緒に酒を飲み、疲れると離席しているお客様の席に座り、お客様が戻ってきたら空いている席に座るといった、まるで椅子取りゲームのようなことをしていました。良い言い方をすれば、アットホームで気さくな式場でした。

司会のギャラは、1本23,000円、1日3本こなすと69,000円になりました。しかも当時は祝儀が必ず出ましたので、生活費を稼ぐには、うってつけのアルバイトでした。

こんな式場の為、隣町に新しい式場が出来たら、少しずつお客様が取られ気づいたら無くなっていました。その後、芸人の大先輩から他県の農協を紹介してもらい婚礼司会を続けました。そしていつしか、婚礼の仕事が中心になり専門の事務所に所属するようになりました。農協からスタートした私は、一流と呼ばれる式場、ホテルそして、レストランウェディングとさまざまな場所で、おおよそ1,000本以上の婚礼司会を経験しました。

数々のエピソードの中で、もっとも印象に残っている披露宴は、新郎のチェンジです。それは、最初に打合せした時の新郎と2度目の打合せ時の新郎が変わっていたのでした。式場は、都内でも有名な○○園。実は、新婦はこの式場で結婚式を挙げるのが夢だったようで、式場の予約を優先したのでしょう。かなり大きな披露宴で、挨拶や余興は、ほとんど新婦側でした。

披露宴の最中に警報機がなり、そのままお開きまで鳴り続けたこともありましたが、マイクも使えず地声でしゃべり、カラオケも警報機の音でおかしくなり、お客様には、申し訳ないことをしました。当然、ホテルにクレームが入り、ギャラはもらえませんでした。また、新郎が宴の最中、酔っ払い、最後の挨拶時に吐いたり、新郎宛の祝電で元彼女からの脅迫の祝電が届いたことは数回ありました。

思い出せば、数え切れない程のエピソードがあります。今回は、これくらいにして、次回7月にこの続きをお伝えします。

(営業部課長 山本 兼嗣)



平成24年1月1日施行の放射線物質汚染対処特別措置法により、産業廃棄物等指定廃棄物の指定基準は、8,000ベクレル/kgとされ、廃棄物業界はその基準で運用されております。

一方4月には、食品中の放射性物質に関する暫定規制値が厚生労働省より発表され、新基準値が適用されることになりました。しかし、民間団体は「少しでもゼロに近く」という消費者の要望に応じて国の新基準値より厳しい基準値を出して、生産者は混乱し被害を受け、また消費者も、何を信じればと懐疑的になっているのが現状のようです。

原発事故による放射能の拡散を目の当たりにしている消費者が「少しでもゼロに近く」と望むのは当然のことです。特に幼児を抱えている家庭では神経質にならざるを得ません。ただ、ゼロに近い事を望むのは人情であるとしても、クレームが来ないようにという意識が強すぎるのか、基準値は厳しすぎて、現実在即しているのかどうかの疑問が残ります。

そもそも原発がなくても、自然界にはもともと放射線(自然放射線)が存在し、宇宙から、地中の花崗岩等の物質から、空気中からも人は相当量の放射線を浴びていることを書物から知ることが出来ます。実生活の中では放射線を浴びる機会がたくさんあるのに、「放射能」と聞いただけで反射的に忌避し、食品や廃棄物の規制値をむやみに厳しくするのは、真の問題解決になるでしょうか。

よくマスコミで放射線の例として出される胸部X線やCTスキャンからも私たちは放射線を浴びています。しかし、X線などは医師の説明を聞き納得し、安心して受診することが出来ています。

国は、我が国の基準は国際的な基準と比べても厳しい内容であることを強調して「農水省の考え方を周知徹底したい」と述べたとの報道がありました。確かに、食品中の放射性セシウムの規制値を見ると、米国、EUに比べても日本の規制値は厳しくなっています。

そうであるなら、国はもっと積極的に正しい知識を国民へ周知する努力を続けることが必要で、国民(生産者も、販売者も消費者も)が冷静に判断できるようにすべきではないでしょうか。

披露宴の最中に警報機がなり、そのままお開きまで鳴り続けたこともありましたが、マイクも使えず地声でしゃべり、カラオケも警報機の音でおかしくなり、お客様には、申し訳ないことをしました。当然、ホテルにクレームが入り、ギャラはもらえませんでした。また、新郎が宴の最中、酔っ払い、最後の挨拶時に吐いたり、新郎宛の祝電で元彼女からの脅迫の祝電が届いたことは数回ありました。思い出せば、数え切れない程のエピソードがあります。今回は、これくらいにして、次回7月にこの続きをお伝えします。それではまた。